

中国百科検定実施特別企画

講演会「古代史の頂点 兵馬俑の謎を解く」

来村先生の講義に参加者大満足、60 名が参加

9月9日に大阪国労会館1階ホールで第3回中国百科検定実施特別企画講演会「古代史の頂点 兵馬俑の謎を解く」を62名の参加で開催しました。



写真は、画像を駆使して講演する来村先生（正面立っている人）と熱心に聞き入る参加者

中国百科検定試験受験の関心を高めてもらい、大阪の国立国際美術館で開催中の特別展「始皇帝と大兵馬俑」の鑑賞を深く理解してもらおうと、協会関西ブロック主催で、考古学者で中国陵墓研究でも名高い、NHKの特番解説でもおなじみの来村多加史先生（阪南大教授）を講師に招いての講演会でした。プロジェクターを使って画像による説明は非常にわかりやすくあっという間の90分でした。感想用紙にも「始皇帝陵のことがよく理解できました」「午後からの特別展見学が楽しみです」、「やっと私の期待していた日中友好協会らしい行事を

してくれた」等の声が寄せられ参加者は大満足でした。事前申し込み以外の人も来られ、会場の席が足りなくなるハプニングも起きました。

特別企画第2弾として10月23日に『『200年中国』から日中関係を読み解く』のテーマで、西村成雄大阪大学名誉教授を講師に開催を予定しています。府連ホームページの百科検定のサイト(<http://jcfaosaka.org/hyakkakentei.html>)をご覧ください。

「中国百科検定」試験とは 日中友好協会が2014年から実施している検定試験で、「絆は理解を深くする」をスローガンに取り組んでいます。理解に応じて、3級（もりしりコース）2級（中国通コース）1級（百科老師コース）と分けられ、年齢、国籍の制限はなくどなたでも受験可能です。

第3回目が来年2017年の3月20日（祝・月）全国30の都市で一斉に開催されます。

中国に関する多方面の知識理解を通じて、中国への理解者を増やし、日本と中国の多分野での交流を盛んにするための検定です。出題内容は中国語の能力ではなく、歴史・地理・政治・経済・文化・教育・スポーツなど多方面の知識を問う、日本でもユニークなものです。近畿では、大阪・京都・神戸の三会場で実施されます。